

# お知らせ

◆2022年・オンライン新年会  
 今年は中止となった新年会を、来春はオンラインで開催します。  
 日時 1月22日(土) 14時～16時  
 ※豪華福引付き

日ごろ会うことのない全国の会員同士が親睦を深める機会です。福引による賞品(遠藤作品の書籍など)も用意いたしました。

参加ご希望の方は以下のEメールまでお申込みください。事務局から参加のためのURLをお送りいたします。  
 Shusaku\_club@yahoo.co.jp  
 ちゅうさくくらぶ(こい)に参加ください。

◆「遠藤文学原点の旅」に代えて、オンライン懇親会を開催

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった今年度の「遠藤周作・原点の旅」は、来年の開催も現在では見通しが立たない状況です。

その代案としての「オンライン懇親会」(第1回)を本年7月に行ない降電を得ましたが、来春にはまた、オンラインによる「懇親会」を開催の予定です。

※詳細は次号会報でお知らせします。

◆未発表・遠藤周作日記

——死・キリスト・文学

「三田文学」2021年・秋季号

定価1,000円

1961年から1974(38～51歳)の未発表日記(一部は単行本、雑誌に掲載済)。読みどころは、『沈黙』の次の書下ろし長篇『死海のほとり』のたぬのイスラエル紀行や、小説の構想、

具体的イメージを積みあげる個所。ほかに三島事件への衝撃と、それにもなう読書(三島由紀夫『奔馬』)についても語られるが、作者の膨大な読書量が読む者を圧倒する。  
 申込方法  
 電話(03・3451・9053)、あるいはFAX(03・3451・9057)、メールは(mitabun@muse.ti.ne.jp)まで、ご住所、お名前、冊数をご記入の上お申込みください。

◆遠藤文学・新刊のお知らせ

河出書房新社

『秋のカテドラル』

遠藤周作初期短篇集 10月20日刊行

『誘惑 薔薇色の門』

遠藤周作初期中篇 11月25日刊行

『稔と仔犬 青いお城』

遠藤周作少年少女小説

2022年2月刊行予定  
 各々定価1,980円(税込)

これまで単行本未収録であった貴重な作品を発掘。芥川賞受賞直後の、若き日に発表された幻の短篇、中篇、少年少女小説の数々を収録。解題・解説は今井真理。

お問合せは、河出書房新社編集部、太田美穂まで。 m-ota@kawade.co.jp (電話) 03・3404・8611 (FAX) 03・3404・1377

◆遠藤周作没後25年(最終回・追加)

テーマ:『深い河』に込められた思い

講座名「文章で表現する技術」

(朝日カルチャー新宿・1月～3月期)

※今期はオンラインでの参加も可。

講師 加藤宗哉

日時 全3回

1月14日(金)、2月11日(金)、3月11日(金)

いずれも13時～14時30分

会場 朝日カルチャーセンター新宿

内容 遠藤周作が人生最後の闘病生活のなかで書き上げた『深い河』——。遺作ともいうべき人気作品の意味を、『創作日記』と、講師の知る最晩年の様子を手がかりに探ります。  
 受講料 会員10,395円  
 一般13,695円

申込先 朝日カルチャーセンター新宿

03・3344・1945

東京都新宿区西新宿2の6の1 新宿住友ビル10階。最寄り駅は都営大江戸線「都庁前」駅、もしくはJR「新宿」駅西口。

◆◆◆

◆「会報」の原稿募集

会員の皆さんの原稿を募集します。900字(半ページ分)あるいは1800字(1ページ分)。遠藤周作の人と作品について、あるいは遠藤文学との関わりなど何でも結構です。なお、原稿は必ず下記「周作クラブ」宛てに郵送してください。掲載の際にはご連絡差し上げます。

◆「周作クラブ」会員募集

「周作クラブ」では会員を募集しています。遠藤文学ファンはもちろん、これから読んでみようという方々も大歓迎です。年会費は3,000円。入会金はありません。年4回発行の「会報」が送られるほか、会が主催する「新年会」「周作忌」「文学セミナー」や遠藤作品の足跡を訪ねる「遠藤文学・原点の旅」、そして「オンライン懇親会」にも参加できます。下記「周作クラブ」まで、ハガキかEメールでお申込みください。折り返しご案内の資料と会費の振込用紙をお送りします。

なお、当クラブでは昨年より財政健全化のための「協力金」をお願いしています。一口1,000円で、何口でも結構です。ご協力いただければ幸いです。

## ＊編集後記＊

▼11月だというのに、妙に暖かい日が続いています。こういう時に、温暖化の三文字が頭をよぎります。イギリスではCO2が行われました。果たして人類はこの難題を解決できるのでしょうか。

▼などと思いながら、編集後記を書いているのは、副編集長です。今号では、編集長が出張中のため、急遽ピンチヒッターを仰せつかりました。

▼今年は周作忌が直接参加とリモート両方のハイブリッド形式で行われました。時代はそんな段階にまで達しています。アメリカから、ゲッセル先生も参加なさり九州からはカシヤさん、国際色豊かな周作忌になりました。コロナでこういった形式が増え、場所・時間を超えて一同に会せるのは良いことです。

▼「遠藤周作を偲ぶ一日」での、純心高等学校の生徒さんと周作クラブ長崎の方々による朗読劇は、全国二位の純心の合唱とのコラボ。私は、午前中に原爆資料館を訪ね、その直後の朗読劇でしたので、感動もひとしお。天使の歌声、朗読に遠藤先生もさぞかしお喜びだったことでしょう。(亀)

## 「周作クラブ」第85号

2021年11月発行

■発行人 加賀 乙彦

■編集人 高橋千劍破

■副編集人 亀岡 園子

■編集部 一田佳希、大原雄、近藤恭弘、高木香織、清水優子

■発行所 東京都世田谷区上馬4-29-17 加藤宗哉事務所内「周作クラブ」

Eメール Shusaku\_club@yahoo.co.jp